

第7回横浜港シェアリングエコノミー研究会 議事概要

日時：令和5年3月15日（水）15:30～17:00

場所：横浜第二合同庁舎13階 131・132会議室（オンライン併用）

■議事

- (1) シャーシシェアリングの検討経緯
- (2) 第2回シャーシシェアリング実証実験結果等の報告
- (3) シャーシシェアリングの社会実装に向けた課題と対応

主な意見は以下のとおり。

【陸運事業者】

- ・実証実験の実施時期がもう少し忙しい時期であれば利用率が高くなったと思うが、コロナやアメリカの経済情勢等の影響により業務量が少なかったため、期待していたような結果が出ていたのかという点については少々疑問がある。
- ・感覚的には、少し利用が少なかったと感じている。将来的な社会実装に向けて、今回の結果は「成功だった」と言えるのか。もしそうであれば、将来的にどのようなシステムで事業者に浸透させようというお考えがあるかお聞きしたい。

【事務局】

- ・与えられた環境の中でしっかりと利用して頂いたと認識している。実施時期が繁忙期と外れていたかもしれないが、そういった時期で事業が回せるかという実証はできたのではないか。
- ・今回の実証実験により、社会実装に向けてどのような課題があるか分析することができたと考えている。次の段階として、社会実装に向けてどのように進めていくかという点については、今後引き続き検討していく必要があると認識している。
- ・シェアリングの利用により走行距離やCO₂の削減効果があることについては数字として表れており、この検証ができたことは成果があったと考えている。

【陸運事業者】

- ・社会実装に向けたスケジュールはどのように考えているのか。
- ・進めていくのであれば、早い方が良いと思う。

【事務局】

- ・研究会自体は今回で区切りとなり、今後は発展的な検討を進めていく考えであるが、具体的なスケジュールを示す段階には至っていない。

【陸運事業者】

- ・今回の実証実験では、前回の実証実験と比べて、シャーシプールの増設や24時間利用可能となった等かなり便利になったと感じた。より利用しやすくするために、自社ヘッドのみならず協力会社もシャーシシェアリングを使えるよう間口を広げてほし

い。

- ・トラックドライバーの高齢化や若年層の減少が問題になってきている現状を踏まえ、シャーシシェアリングを使って効率的に省力化・省人化ができるよう、幅広く使っていければと思っている。

【事務局】

- ・1点目については、社会実装に向けて検討が必要であると認識している。利便性と安全性を両立させる形で検討していこうと考えている。2点目については、労働力人口の変化等も踏まえて効率化できるような施策を考えていきたい。

【陸運事業者】

- ・担当者がシャーシシェアリングの仕組みを理解する上では良い実証実験になったと思う。しかし、日報の記入や提出がかなり負担になっていたため、こうした細かい部分で利用が進まなかった面もあるのではないかと。次回、ステップアップした取り組みを実施する際は、通常業務以上の負担がかからない形で実施すれば、もう少し利用率も上がり、実態に即した結果が出てくるのではないかと。

【事務局】

- ・実証実験ということで詳細なデータ取得を目的としたため、手間が増えてしまった点については負担をかけてしまった。社会実装の段階では、位置情報等の活用により通常業務以上の手間がかからないよう心掛けたいと考えている。

【陸運事業者】

- ・折角良いものが実証実験としてできたと思うので、引き続き運輸事業者の意見を聞きながら進めてほしい。

【陸運事業者】

- ・シャーシシェアリングについては課題と対応方策が出揃ったと認識しているので、精査の上、今後に生かしてほしいと思う。

【陸運事業者】

- ・今回は事業者側の（費用）負担がない中での実証実験であった。社会実装では利害が発生するため、検討の上、提示された案に対して可能な範囲で協力していきたい。

【陸運事業者】

- ・シャーシシェアリングの良い面、悪い面がわかってきているので、引き続き社会実装に向けて検討して行ってほしい。
特車申請や担当者への負担（日報など）を減らしてもらい、コンプライアンスや安全の順守を第一に検討を進めてほしい。

【陸運事業者】

- ・良い取り組みだと思うが、クリアしなければならない課題もかなり多い。実証実験とい

うことで車検証変更手続きを簡素化した特例もあるが、社会実装に向けてまた元に戻ってしまうのではないかと懸念がある。

- ・(シャーシシェアリングを検討してきた) この3年の間に、労働時間の問題が来年に迫ってきている。かつてのような荷動きがなく、ターミナルの混雑が顕在化していないのが現在の状況。景気がコロナ以前の状況に戻り、以前のように待機時間が2~3時間、多い時は8時間となった暁には果たしてどうなるのか。
- ・今後、シャーシシェアリングの取組みは積極的に進めていくのか。労働環境面の問題もある。社会実装の実現までの時間の短縮という面で、協力願いたい。

【事務局】

- ・法的な手続きに係る課題については、実証では一つ一つクリアしてきたが、社会実装に向けてどうするかについては引き続き取り組んでいきたい。
- ・貨物が増える前の段階で考えておかないと、そのような状態になった場合に対応できないため、引き続き、進められるところから進めていきたいと考えている。
- ・労働時間だけでなく、周辺環境も変わってきている。こうした状況も踏まえながら進めていきたい。

【陸運事業者】

- ・シャーシシェアリングを進めるうえで、特車申請が最も時間を要するポイントだと思うので、効率的な解決策があれば良いと思っている。
- ・陸運事業者へのアンケートの結果も、概ねシャーシシェアリングに対して好意的な結果だったかと思う。折角検討を進めてきた取組みなので今後も検討を続けてほしいが、ゴールやスケジュールが明確化されれば、更に協力していけるのではないかと思う。

【事務局】

- ・特車申請については、今年度より運用開始されている、WEB サイト上で特車申請が可能である確認制度を活用することも考えられる。
- ・シャーシシェアリングの社会実装に向けては今後も検討してまいりたいと考えており、引き続きご協力をお願いしたい。

以上